

2015年度 未来の京都創造研究事業

研究だより 第1号

未来の京都創造研究事業は、「大学のまち京都」の『知』の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するため、大学の研究者と京都市の担当部署との協力により調査・研究を行っていただく事業です。

去る10月30日（金）に中間報告会を終え、調査・研究も折り返し点です。

この研究だより第1号では、今年度の5件の調査・研究テーマの簡単な概要と、その中のひとつ、指定課題3について紹介いたします。



中間報告会の一幕。
各研究者の報告に対して、
鋭い質問が寄せられました。

今年度の 調査・研究 テーマ

指定課題

（京都市が指定する調査・研究課題）
..... 3題

自由課題

（京都市の政策に関わる調査・研究
課題で、研究者が自由に設定する
もの）..... 2題

指定課題

障がい者雇用を実現する持続可能な「食の経営」についての研究

古村 公久（京都産業大学経営学部・准教授）

これまで十分に機能してこなかった「企業による障がい者雇用」について、理論的研究に加え、実践（アクション・リサーチ）によって京都市内において「食の分野」における障がい者雇用を普及させることを目指します。



自由課題

京町家における居住文化に対応した断熱改修手法に関する研究

土井 脩史（京大大学院工学研究科・研究員）

京町家の居住文化を継承しつつ、省エネルギー性能を改善する断熱改修手法を検討し、その効果と普及に向けた課題を明らかにするとともに、京町家の居住文化に適應した断熱改修の設計指針を提案します。



指定課題

自転車の走行環境整備における知覚心理学の活用についての研究

北岡 明佳（立命館大学文学部・教授）

自転車の車道走行時の恐怖感を軽減するとともに、逆走の防止や一時停止等、交通ルールの遵守により自然な感じで誘導するため、知覚心理学（錯視・だまし絵等）や認知心理学の手法を活用したデザイン開発的研究を行います。



地域連携活動への参加が学生の意識に与える影響の分析に基づく効果的な大学・地域連携科目及び事業の開発に向けた研究

桜井 政成（立命館大学政策科学部・教授）

①学まちコラボ事業、②京都世界遺産PBL科目、③各大学での地域連携型教育プログラムなどの事例を詳細に分析し、学生の学び、地域への影響が、ともに良いものとなるための方策を明らかにします。



自由課題

京都市におけるまちの居場所運営の継続要因及び終了要因の抽出

小辻 寿規（京都橘大学現代ビジネス学部・助教）

社会的孤立・孤独死問題の解消策の一つとしてつくられている「まちの居場所」について、京都市の地域特性に即した継続要因と終了要因を抽出し、市民による活動への援助と行政による支援の基準作成に資することを目指します。





研究メンバー

- 桜井 政成 (立命館大学政策科学部・教授)
- 赤澤 清孝 (大谷大学文学部社会学科・講師)
- 滋野 浩毅 (京都文教大学地域協働研究教育センター・専任研究員)
- 久保 友美 (龍谷大学地域共同総合センター・博士研究員)
- 乾 明紀 (京都光華女子大学キャリア形成学部・准教授)

右から、
研究代表者の
桜井先生、
久保研究員、
滋野先生



指定課題 3

地域連携活動への参加が学生の意識に与える
影響の分析に基づく効果的な大学・地域連携科目
及び事業の開発に向けた研究

研究の概要

大学コンソーシアム京都が現在実施しているPBL科目・地域連携事業を評価し検討することにより、その意義と今後の方向性を示すとともに、京都市における学生の学びと地域の活性化を推進するための施策開発につなげる。個々の大学レベルでは困難な部分や、より効果的な取組となるための支援のあり方の提示を目指している。



学まちコラボ事業採択団体へのヒアリング。

「学まちコラボ事業」採択団体の分析

大学・学生と地域の協働による、まちづくりや地域活性化に向けた事業に支援金を交付する「学まちコラボ事業」に採択された団体のうち7団体にヒアリングを行った。ヒアリングからは、協力的な地域の方とのつながり、OBなど助言者の存在、引継ぎ書類などが学生の主体的な参加を促し、さらには地域への愛着を醸成する可能性が見えてきた。

各大学の強みを生かした PBL 科目の分析

PBLとは、Problem (またはProject) Based Learningの略であり、問題解決型やプロジェクト実施型の学習を想定している。

研究グループのメンバーが在籍するそれぞれの大学での取組の分析から、地域と学生をつなぐ地域連携専門部署・サポートスタッフの存在や、学生が地域に継続的に入り、接点を増やす仕掛けの重要性が見えてきた。

そして・・・

今後、世界遺産PBL科目受講生へのアンケート調査や、他地域での事例の調査を実施し、大学コンソーシアム京都のような大学連合体がどのような取組を行うことで、学生の学び、地域に対してより良い影響を与えることができるのか、そのあり方や方策を明らかにする。

研究グループ からひとこと

日本の高等教育において、アクションラーニングの一形態としてPBLが注目を集めています。京都でも多くの大学が取り組むようになってきました。本研究メンバーもPBLに取り組む者がほとんどです。しかしこの分野の研究は数少なく、課題も多くあります。本研究では教育実践をベースにしながら学生の地域愛着や地域の活性化に寄与するあり方を探索的に検討しています。



左から赤澤先生、乾先生

編集後記

今年度の「研究だより」第1号を発行します。取り上げる研究テーマは毎年異なっていますが、「京都らしい」テーマという点では変わりません。ヒアリングや事例の積み重ねがあれば、実証実験とアイデア提起もあります。「わからなかったことを明らかにする」「新たなものをつくる」という意欲的な取り組みにご期待ください。

公益財団法人

大学コンソーシアム京都

シンクタンク事業担当 水田、矢野

E-mail mirainokyoto@consortium.or.jp

電話 075-708-5803

URL <http://www.consor-tium.or.jp/project/seisaku/think-tank>

